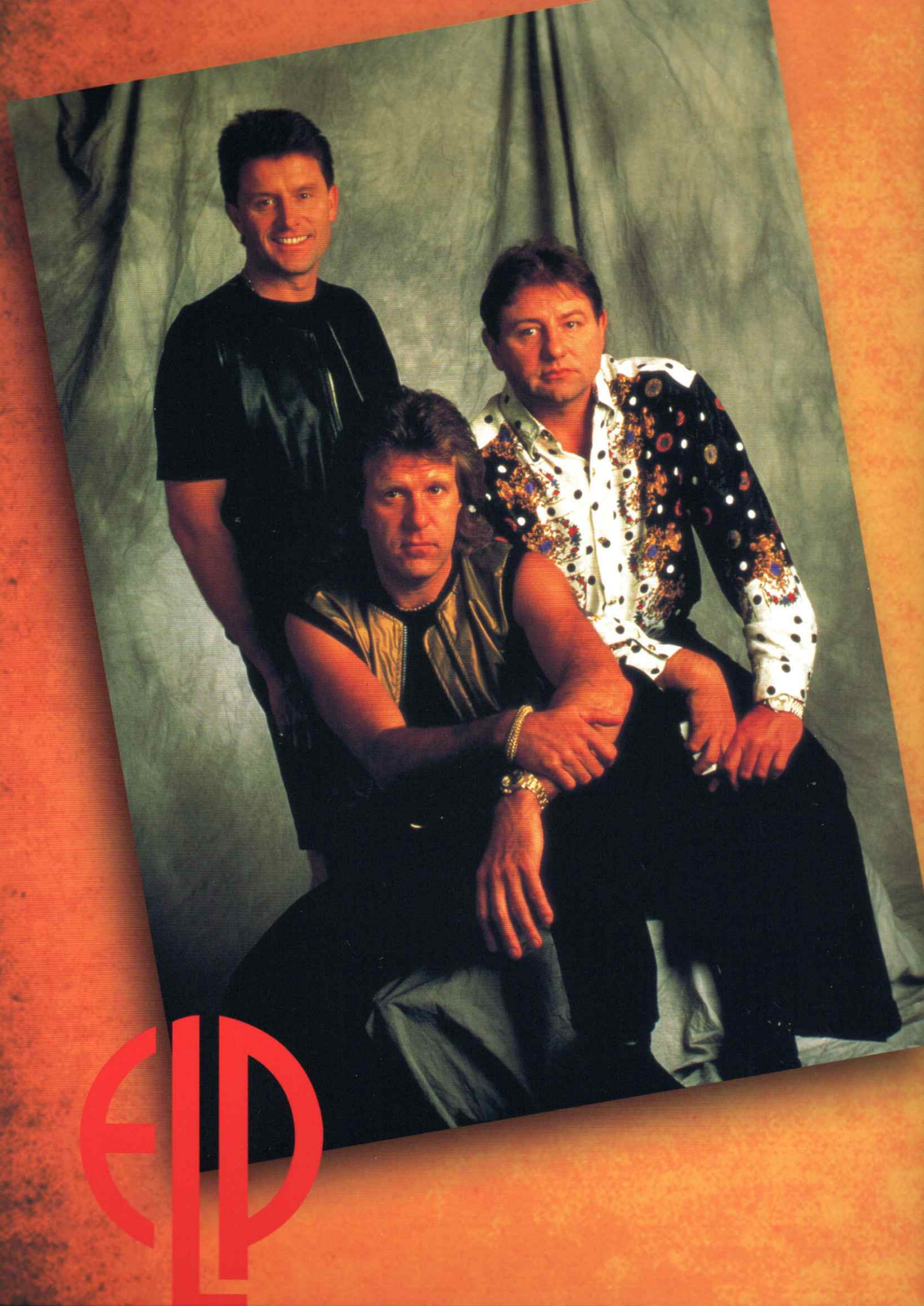


EMERSON, LAKE & PALMER



JAPAN TOUR 19



ELP

PERSON, LAKE & PALMER JAPAN TOUR 1996

FUKUOKA

10月8日 福岡サンパレス

主催●FM福岡

OSAKA

10月9日 フェスティバルホール

主催●fm osaka 後援●スポーツニッポン新聞社

NAGOYA

10月10日 名古屋市公会堂

主催●中部日本放送 後援●ZIP-FM

TOKYO

10月12日 渋谷公会堂

10月13日 厚生年金会館大ホール

10月15日 サンプラザホール

10月17日 サンプラザホール

10月18日 サンプラザホール

主催●日本テレビ/TOKYO FM

SENDAI

10月14日 仙台イズミティ21大ホール

主催●仙台放送/仙台放送エンタープライズ/FM仙台

SAITAMA

10月19日 浦和市文化センター

主催●日本テレビ/TOKYO FM

協力●ビクターエンタテインメント株式会社

招聘●ウドー音楽事務所

企画運営●ウドークリエイティブアーティストズ





'72年7月下旬に実現したEL&Pの初来日公演は、当時、ロック・バンドとして唯一無比のカリスマ性を誇った彼ららしく、何と後樂園球場と甲子園球場で行われている。前年、台風の直撃による嵐の後樂園球場を熱狂させたグランド・ファンク・レイルロードのショウと並んで伝説と化したEL&P公演は、キース・エマーソンがオルガンを倒し、抱きかかえながらナイフをそのオルガンに突きつけるという壮絶なパフォーマンスで観客の度肝を抜き、また、甲子園球場では熱狂のあまりグラウンドに観客がなだれ込み、発煙筒の煙の中でコンサートが中止になるという事件までが勃発した。EL&Pという偉大なるバンドを初めて目撃した日本のファンのパニックぶりは、今でも日本のロック史に深く刻み込まれている。

EL&Pは革新的なサウンドをロック・シーンに持ち込み、数多くの名作を世に送り出したものの、'79年に10枚のアルバムを残して解散。プログレッシブ・ロックの先駆者が自らその幕を引いたことで、一つの時代の終焉が訪れた。しかし、それから約12年後の'91年にこの伝説のEL&Pが劇的に復活し、そして、'92年、何と20年振りという日本公演が実現した。世代を超越した超満員の観客の前に登場したEL&Pは、'70年代の黄金時代と変わらぬ迫真に満ちたライブ・パフォーマンスを見せつけ、演奏される名曲の数々は新たな生命を得て、空間を自由に飛翔するのだった。翌'93年には4枚組ボックス・セットを発売し、彼らの出世作「展覧会の絵」他を新たに再レコーディングするなど、意欲的な姿勢を見せつけ、そして、「ブラック・ムーン」に続く復活第2弾のアルバム「イン・ザ・ホット・シート」を'94年にリリースする。

しかし、ボックス・セット発売時の'93年11月にプロモーションで来日したキース・エマーソンは、腕の神経の病気のために手術とリハビリが必要であることを告白し、後に「イン・ザ・ホット・シート」を発表したものの、彼の回復を待ちながらツアー計画を立てるといってEL&Pはしばしの沈黙を保つことになった。事実、噂されていたイエスとのジョイント・ツアーはキャンセルになっている。'94年11月、バンド結成25周年記念のベスト・アルバムを発表したEL&Pは、'96年にJETHRO TULLとの合同ワールド・ツアーを計画。インターネットでその情報が公開される。ところが、運悪くJETHRO TULLのイアン・アンダーソンが

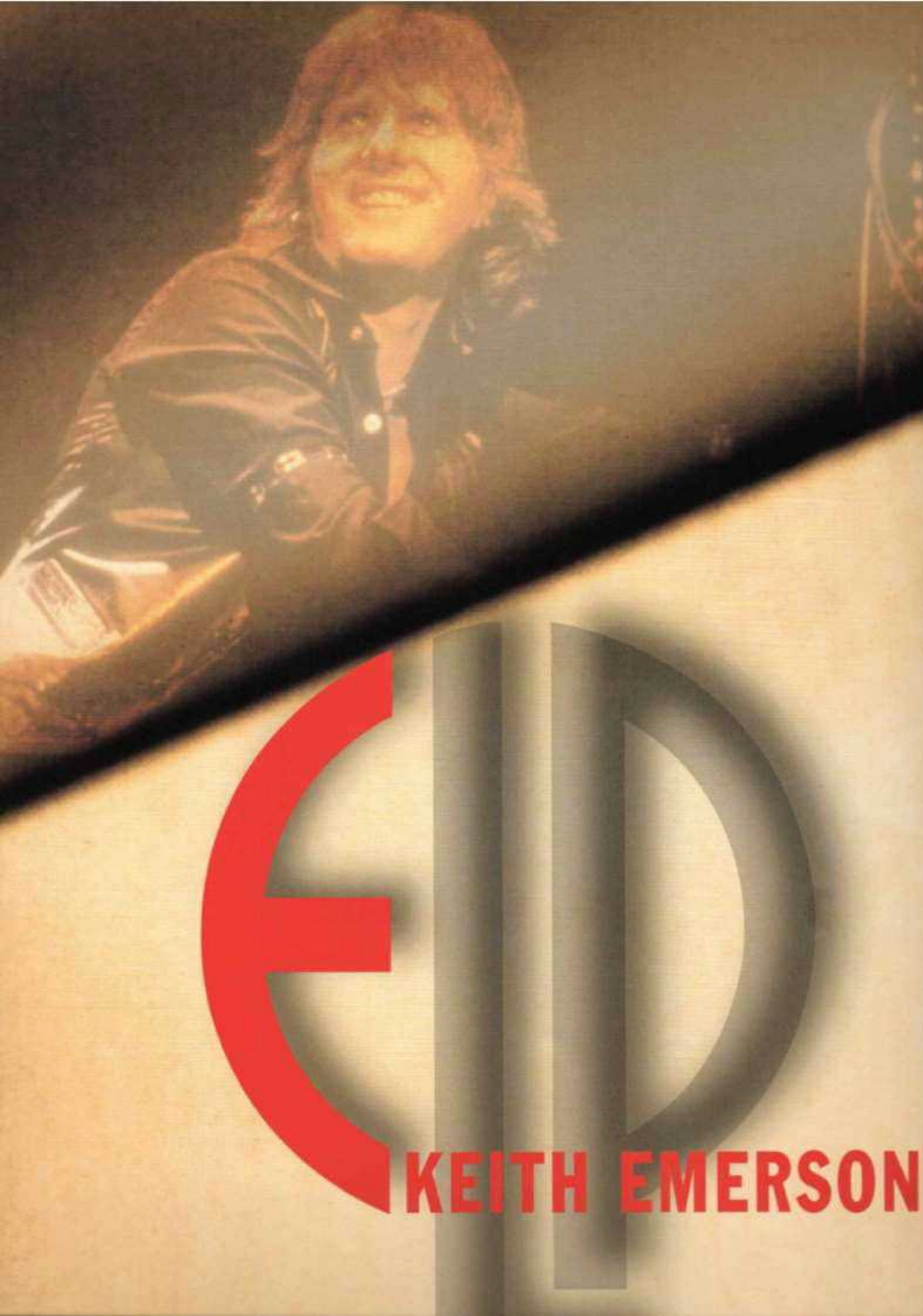
足を痛め、手術を行う必要が生じてこの計画は直前で中止になる。ひょっとすると、EL&PとJETHRO TULLという画期的な日本公演が実現するかもしれないとファンは期待したが、結局、EL&Pは単独公演を決意し、ついに、4年振りの来日公演が発表された。

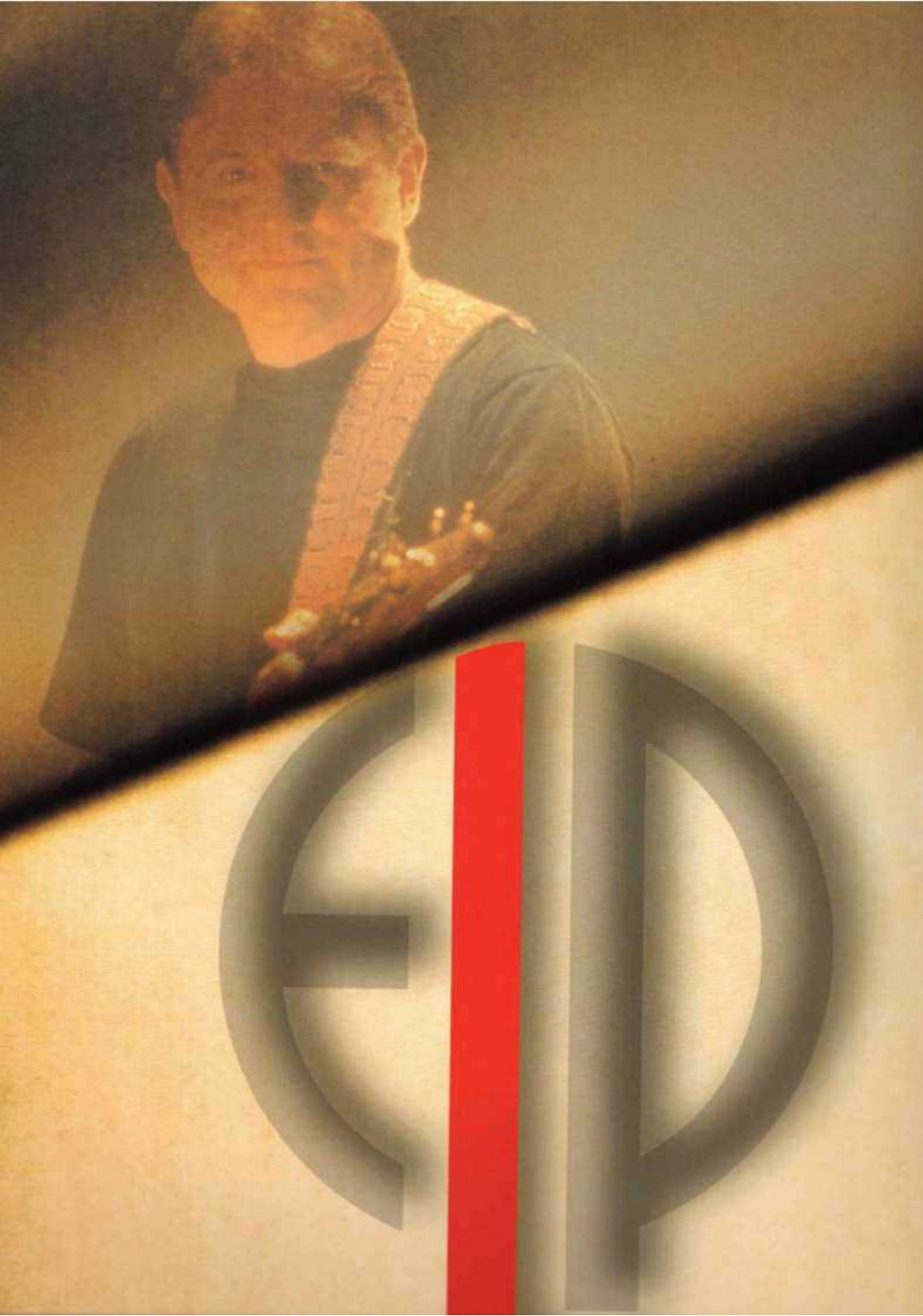
本当かどうかはメンバー自身からの説明を待ちたいが、EL&Pが今回のワールド・ツアーを最後に解散するのではないかとの噂がある。いずれにしても、既に行われたアメリカ・ツアーの反応は素晴らしく、グレッグ・レイクのヴォーカルは黄金時代に匹敵するものだったと報告されている。また、キース・エマーソンも順調に回復しているようで、以前よりもさらにシャープなキーボード・プレイが聴けたとあるジャーナリストは語っている。

日本公演の選曲がどうなるかは幕が開くまで分からないが、アメリカ・ツアーでは名曲「ホウダウン」からショウは始まったらしい。そして、復活以降の作品の後に登場するのが名曲の数々で、最後の最後のクライマックスには、プログレッシブ・ロック・シーンに金字塔を打ち立てた傑作「タルカス」、「展覧会の絵」の大作が、壮大なスケールで演奏されるはずである。そして、観客がアツと息を飲み込むあの「ロンド」までが会場をすっぽりと包み込むように登場する・・・。

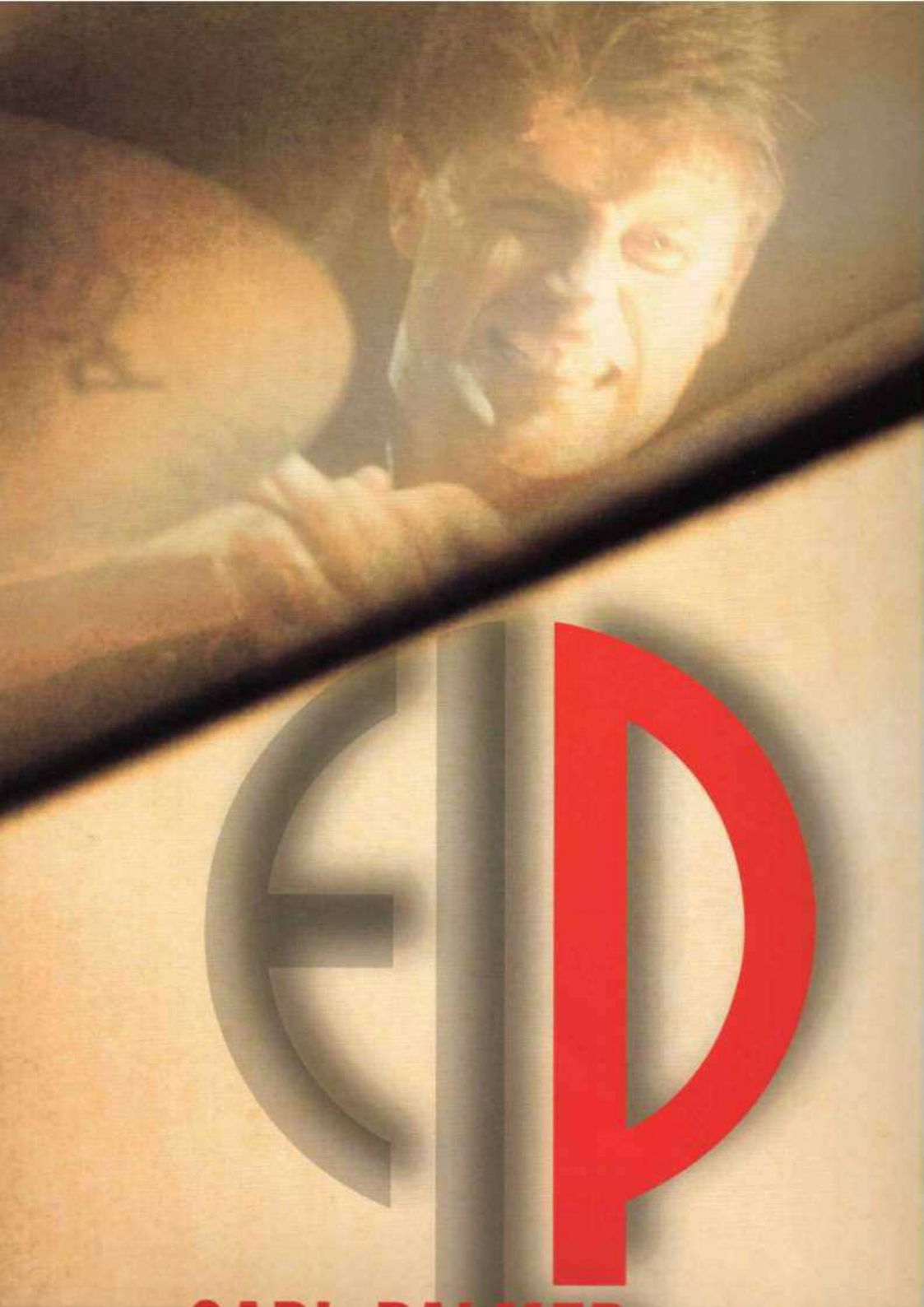
トリオ編成という最小ユニットの利点を最大に活かしながら、EL&Pは実験的且つ革新的な技術を次々に開拓してきたバンドだった。記念すべきデビュー・コンサートとなったワイト島フェスティバルでは、観客に向けて大砲をぶっぱなすという奇想天外なパフォーマンスでファンの度肝を抜いたが、クラシックをロックと融合させながら、そこにアグレッシブな思想性を持ち込み、独特な解釈でロックという音楽の無限大に広がる表現方法を満天下に知らしめたのも彼らの偉業であった。ムーン・シンセサイザーを誰よりも早くロックに導入し、また、大所帯のオーケストラをツアーに同行させて前代未聞のスケールのショウを行ったりと、EL&Pは時代に風穴を開ける行動力でファンを魅了してきた。今回の4年振りの来日公演の舞台上で、彼らは何を見せ、何を聴かせてくれるのだろうか。常に時代の先を走り続けてきたEL&Pに対する期待は、デビューから25年以上が経過した今でも、さらにどんどん強まっていく。

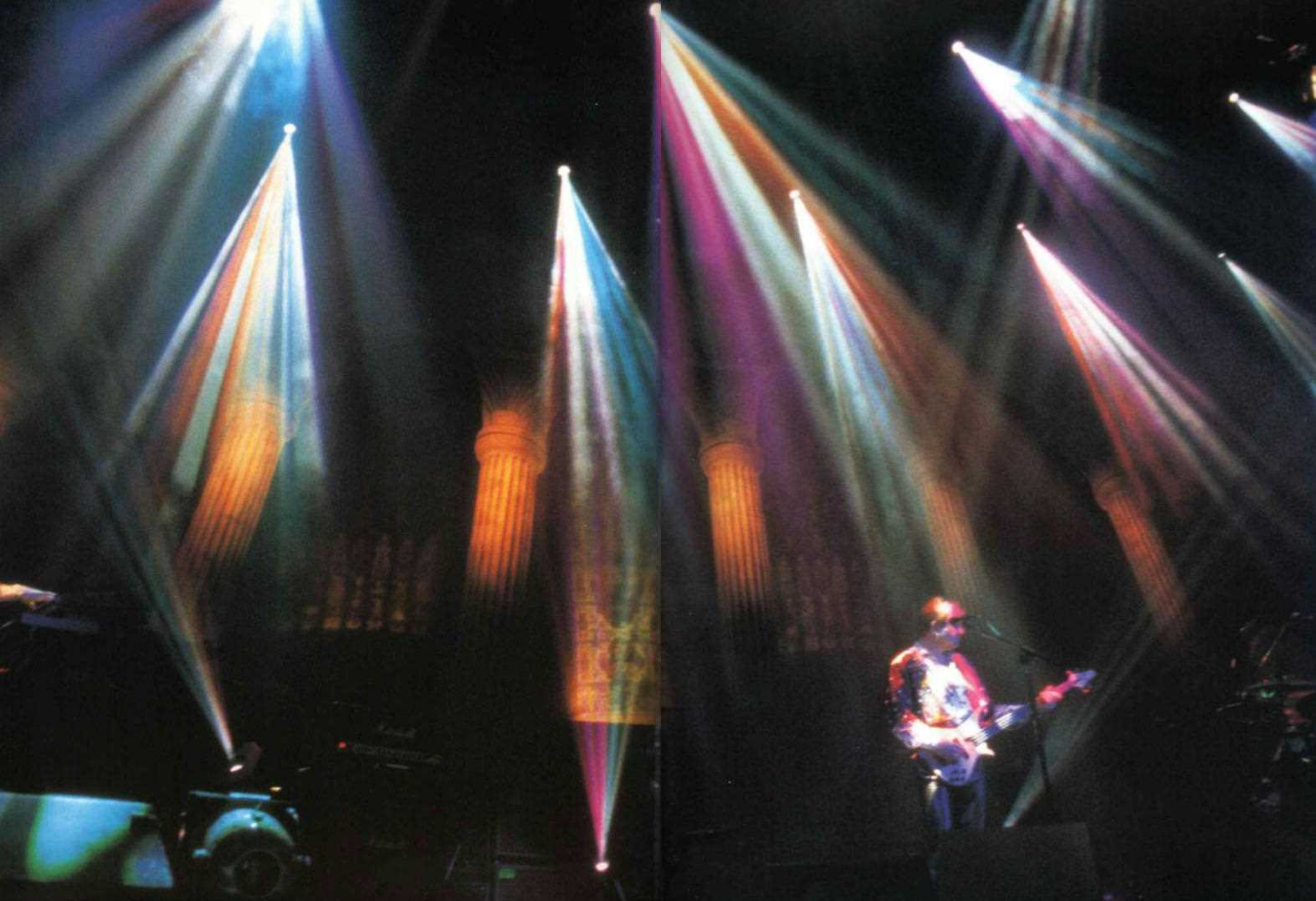
伊藤政則 / MASA ITO



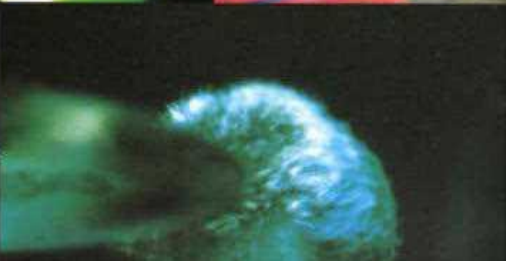
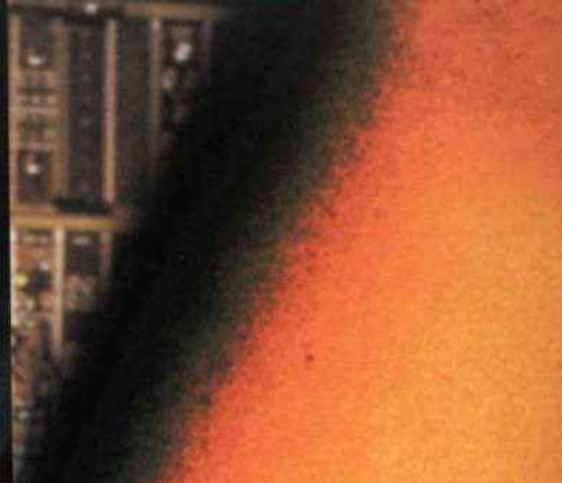


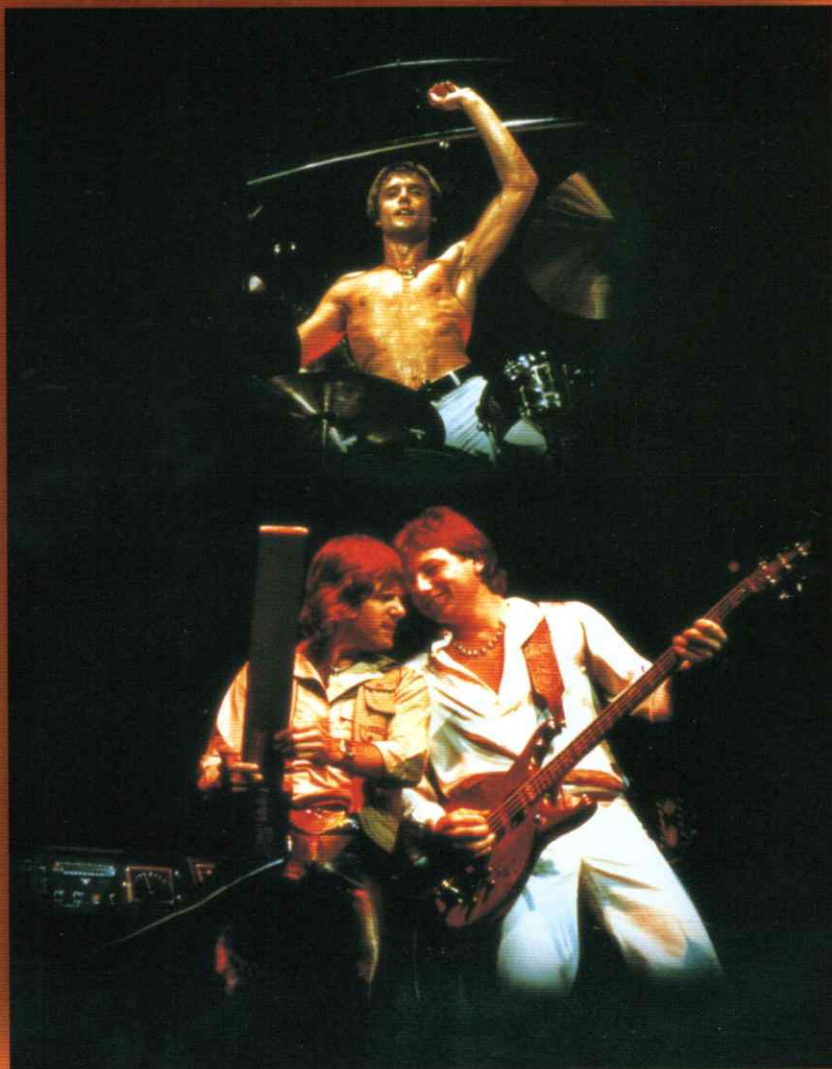












US MANAGEMENT

Hard To Handle Management
 1133 Broadway, Ste # 1301
 New York, NY 10010
 Tel : (212)647-1133
 Fax : (212)647-7374
 Stewart Young
 Merrie Hart
 Kathy Lord
 Robin Irvine

ACCOUNTANT

Prager & Fenton
 675 Third Avenue, 9th Flr
 New York, NY 10017
 Tel: (212) 972-7555
 Fax: (212) 370-1532
 Dan Kesner

TRAVEL AGENT

Air Apparent
 5432 West 104th Street
 Los Angeles, CA 90045
 Tel: (310) 649-0064
 Fax: (310) 649 6609
 Michelle Kramer

UK MANAGEMENT

Part Rock Management
 Plaza 535 Kings Road, Ste # 317
 London SW10 0SZ
 Tel: (44) 171-823-3131
 Fax: (44) 171-823-3254
 Brian Emerson
 Tricia Beaver
 Yo Box

BOOKING AGENCY

EMERSON, LAKE & PALMER - TOUR PERSONNEL

Keith Emerson	Keyboards
Greg Lake	Bass & Vocals
Carl Palmer	Drums
Eric Barrett	Tour Manager
Will Alexander	Keyboard Technician
Keith Wechsler	Guitar Technician
Mike Burns	Drum Technician
Chris Beyer	Sound Engineer-Prod Manager

KEITH EMERSON-SPECIAL THANKS TO:

Korg Inc	General Music
Alesis Corporation	Goff Professional
Opcode Systems	Ensoniq
Studio Electronics	Steinway & Sons Pianos
Moog Music Technology	Invision Interactive

Keyboard System Engineering & Programming by Will Alexander

Alesis QS8 Programming Assistance by Erik Norlander

GREG LAKE-SPECIAL THANKS TO:

Anderson Guitars	Collings Guitars
Gibson Guitars	Martin Guitars
Tune Basses	Dunlop Guitar Picks
Apple Computers	Matchless Amplifiers
Mesa Boogie	Trace Elliot
Eventide Harmonizers	Lexicon Effects
Ensoniq	Mark of the Unicorn
Leabody Systems	Garwood Radio Stations
Aphex	Pete Cornish
Fred Walecki	Westwood Musical Instruments, LA

Guitar System Design & Engineering-Keith Wechsler

CARL PALMER-SPECIAL THANKS TO:



AN UDO ARTISTS PRESENTATION 1996

